

## 1 学校教育目標

○よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○保護者・地域との協働で子どもを育てる活気のある学校 ○常に目標を明確に示し、児童の頭と心と体のバランスの良い発達を目指す学校 ○児童一人一人が大切にされ、学ぶ喜びを感じることでできる学校
○児童・生徒像	○地域に根差し、互いの良さや違いを認め合い、助け合える子ども ○基礎的・基本的な学習内容と生活習慣を身につけ、進んで学習する子ども ○常に目標をもって、健康の増進や体力の向上に努める子ども
○教師像	○常に自己研鑽に努め、指導力や授業力の向上に努める教師 ○深い児童理解と教育愛に満ち、児童・保護者・地域に信頼される教師 ○組織的に協働し、教育効果を高める職務行動意識の高い教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

教職員は、皆熱心に職務遂行に取り組んでいる。児童は明るく素直で、健康面・学習面・生活面に配慮を要する児童に対して全職員が共通理解を図り、素早く、組織的に対応し早期の課題解決に努めている。学校に対する地域・保護者の期待は大きくPTA、各町会をはじめ地域も大変協力的である。区学力調査(4月実施)結果は、**通過率全体80.8%、(国語77.3%、算数84.3%)**で、桜花小学校としては**昨年度に続き通過率80%以上を達成した**。昨年度と比べ(全体78.1、国語78.38、算数77.6)、特に算数科で6.7%の大幅な向上が見られた。校内研究で算数科の研究を進め、足立スタンダードの徹底を目指してきたほか、S-P表や学力ポートフォリオの作成・分析、3、4年生のそだち指導等も活用し、一人一人の児童の課題や伸びを正確に把握し、日々の授業に加え放課後や長期休業中の補習学習で理解が不十分な個所を重点的に指導し、学校全体として基礎学力の定着を図った。学校評価項目「児童は仲良く楽しく学校生活を送っている」のに対して、92%以上の保護者が「よくできている」「ややできている」と肯定的な回答となり、これについても7%と大幅な向上が見られた。開かれた学校づくり協議会の協力も得ながら年間を通し実施している毎朝のあいさつ運動を推進し、日常的に縦割り活動を進める中で、すべての児童に思いやりの心をもって優しく接するという気持ちが育ってきた。児童の運動能力および筋力、持久力のさらなる向上を目指し、授業発表会等を通して体育授業や教材、指導内容の工夫に努めた。さらには、持久走週間や縄跳びチャレンジ等、一定期間集中的に運動に取り組む中で、日常的に運動に親しもうとする児童が増えてきている。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間(年度) R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	思いやりと自分が大切にされている実感ある学級・学年づくり(学級・学年経営)	○	○	○	○	○
3	体力向上	○	○	○	○	○
4	小中連携	○	○	○	○	○

## 5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●					
基礎的基本的な学習内容の定着		令和6年度区学力調査目標値の通過率 80%	<b>2月校内学力事前調査終了後に記入</b>						
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継 続	算数科 習熟度別 少人数授 業の改善	算数	毎日の 授業  低学年 :5/週 2 学年 以上: 6/週	<b>【指導者体制】</b> 担任+習熟度別担当教諭 <b>【取り組みのねらい】</b> 各学級教室：担任と習熟度別少人数教室の半期固定 ○各グループの正答率に応じた目標値設定。 ○指導者が担当グループ児童の理解に責任を持つ。 ○単元末テストの評価テストを行い 結果を事後指導(放課後指導)に反映する。	◇各単元末評価テストのグループ別集団平均点の3期に分け前2期(てんまる学年集計単元別学習状況一覧表)による点検： 校長 確認日 ・ 7/20 ・ 12/20 ・	◇単元評価テスト全学年の通年平均点 80 点以上	算数科単元末テスト結果(1月18日時点)で全学年通年平均が77.1点まで向上した。2月より全学年本年度内容の振り返りを授業で統一して進めるため全体の通年で単元テスト平均80点は達成見込み  また2月事前テストの結果については2月22日に実施予定のため採点・分析終了後に検証する。  但し、他の校内学力施策との複合した理由によるものと考えられる。	学校関係者評価「わかりやすく学力を伸ばす授業」項目で、児童 91%・保護者 88%わからない 11%)の昨年度より3イント向上。 ◆1部の学年の単元進行が予定より遅れた。 ◆習熟度別の学習方法工夫に改善の余地が多く見られる  課題として、若手教員育成について年間を通して同一の習熟度別グループへの指導が継続するため、他の学力集団に応じた授業力伸張を期待しにくい状況が認められた。	○

2 継続	放課後学習による学習内容の定着	算数	4回/週 月・火・金の 放課後 3:00-3:30の30分間	<p>【指導体制】学年＋副担任 【ねらい・目的】</p> <p>○低学年 ・全児童対象・既習内容のプリント・ドリル1枚程度を行い完全正答を担任がチェックした児童から順次下校。残った児童を指導。</p> <p>○3～6 学年 A:各学年指定の特別教室に移動しAIドリルの指定範囲を進める。学年担当専科教諭等が終了を確認した児童から順次下校 B:各学年2組教室に移動2組担任が上記と同様に進める。必要に応じて指導 C:各学年1組教室に移動学年主任よりAIドリル指定範囲の内容について指導を受けた後範囲を進める</p>	各単元末評価テストの学年全体の正答率(得点)の推移	<p>◆各学年算数科単元末評価テスト平均正答率 8割の達成児童が達成</p> <p>◆2月実施の昨年度学力テスト校内調査で各学年習熟度グループ別校内目標値の達成(当初申告時に校長提案・教員調整により決定)</p>	実施結果は前項目と同様	<p>課題：上半期中に17時間の予定回数減が認められたため、年度途中より副校長が調整に入り回数保持に努めた。来年度からは、放課後学習の回数が十分に保持されるよう時間割を変更するなど工夫が必要となる。また当初、校長が毎回のやるべき内容を学年別に毎回行うよう年間計画を作成していたが、学年の単元学習進行に伴い計画通りの統一した進行が困難となり、児童の様子に鑑み学年内で主体的に内容を工夫する形に変更した。</p> <p>来年度については、内容を早く終えた児童から順次下校する形ではなく、週あたり4回30分を単元進行に合わせて全体で進める。</p>	○
------	-----------------	----	---	--	---------------------------	--	-------------	---	---

3 新規	1 時間/週 の特設時 間の追加 (算数科)	算数	毎週の 低: 火 5校時 中・高: 木 7校時	【指導体制】1～6学年 【ねらい・目的】 算数科の「わからない・でき ない」を1人残らずすく いあげる 算数授業の実質2割増 ※時間割としては左記時 間に算数科は設定しない	各単元末評価 テストの学年 全体の正答率 (得点)の推移	◆各学年算数科 単元末評価テス トの正答率推移 ◆2月実施の昨 年度学力テスト 校内調査	実施結果は前項目と 同様	放課後学習を活用し 単元を予定より早め に進め、2月下旬より 当該学年の全体振り 返り学習に統一して 行う。算数科少人数 担当主幹教諭により 年間を通して調整さ せ、行事や会議等で 原則減少のない形で 全体進捗が滞ること のないようにするこ とができた。十分な 効果が認められたも のの来年度以降の設 定は困難であると判 断している。	◎
4 継続	家庭学習定 着への取組	各教科 30分+学 年×10分 間以上	年2回 7月、 12月	【取り組みのねらい】 家庭学習習慣の9割定着 家庭学習提出率向上のた めの保護者の意識醸成 保護者チェックカードの 配布	家庭学習の提 出率各学級達 成度の確認	全学級家庭学 習の提出率9割 以上	最終家庭学習提出率 87.1% (複数回2回以上連続 で未提出だった児童 を除いた割合)	AIドリル・学習プリ ント等を活用して各 学年児童に現行学年 の単元を統一した内 容を進める形ではど うしても1割を超え る未提出児童が残 る。各家庭の協力体 制構築が必須となる	×
5 継続	授業規律 習慣化へ の取組	全学級 全員	年2回 7月、 12月	【取り組みのねらい・目 的】 望ましい授業規律を習慣 化するために、授業規律カ ードにてチェックを行う。	管理職の学級 観察	2回の 全学級の規律 定着(管理職に よる点検)	通常学級12学級中1 学級のみではある が、点検事項のロッ カーの荷物整理・机 の整頓・始業時機上 の学習準備に不安定 な状況の学級が見ら れた。	学年チームでの全体 および個々の児童の 見守りと授業規律習 慣化を短いスパンで チェックし合う体制 を整える。	○

重点的な取組事項－２					
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
○思いやりある児童の育成 ○自分が大切にされていると実感できる環境設定	○生活指導部・特活部における全校的な取り組みの計画と実施 ○各学年での取り組み	ほかほか言葉の全学級取組実施実施達成。読書推進についても統一した方法で共通実践したことにより効果が高まった。	特に読書推進では年間読書量向上が顕著となった。	○	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
「ほかほか言葉」でいっぱい为学校	学校評価児童アンケートの項目「楽しく仲良く学校生活を送っている」及び「自己肯定感」に関わることの達成 90 パーセント以上	○各学級教室での「友達のいいところ」「友達にありがとう」の掲示 ○校長等による朝会等での「友達にありがとう」の紹介 ○行事参観・学校公開後に保護者に依頼するアンケート「桜花っ子の良いところ」のホームページ・学校だより等での紹介	学校評価アンケート 「楽しく仲良く学校生活を送っている」児童の肯定的評価 97.2%・保護者 92% 「自己肯定感や他者理解を高める取組」児童の肯定的評価 90%・保護者 86%(回答者中)	各学級で児童の肯定感を高めるための「ほかほか言葉」掲示等の工夫を実施。行事等の参観後の保護者からのアンケートの学校放送を通しての紹介等を実施した。	○
桜花小 年間読書奨励賞	区学力意識調査「1月に2冊以上本を読む」80%以上へのUP	校長・各学級担任による通年奨励 足立区立図書館作成の「あだち読書通帳」(50冊記録帳)を終了した児童称賛する機会の設定と紹介 1年(3冊)・2・3年(2冊)・4年以上(1冊)ごと	1月22日時点で達成度 年間50冊以上読了の割合は(月4冊以上)は全校生徒の70.8% 1学年 94% 2学年 92% 3学年 85% 4学年 64% 5学年 40% 6学年 42%	教職員の読書量向上への取り組み意識の高まりが児童の読了数アップへ特に低学年児童を顕著に反映した	◎

重点的な取組事項－３					
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
心身ともに健康な児童の育成		○都運動能力調査で一昨年の学年平均スコアを全学年向上させる。	3月中旬時に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
年間を通じた体力向上の取組		<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動朝会、体育授業等様々な運動を計画的に行う機会の設定。</li> <li>・自己の記録履歴や学習カードを活用した運動や遊びの指導、季節や行事に合わせた各種運動月間の設定。</li> <li>・体力テスト・水泳・持久走・縄跳び等の個人記録を整理し、指導に役立てるとともに家庭や地域とも連携した取組の推進。運動月間ごとに学校記録の更新の機会を設定する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水泳指導はコロナ対応のため1学年ごとの実施となり回数削減となった。各体育授業を含め、多くの活動で個人記録を履歴として整理する準備が整った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ対応期間が終了し児童全体に体力向上を促す機会を多く確保することができた。児童も各活動に意欲的に取り組んでおり、今後のタイ直テストの結果分析を含めて更なる向上策に取り組んでいく。</li> </ul>	◎

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

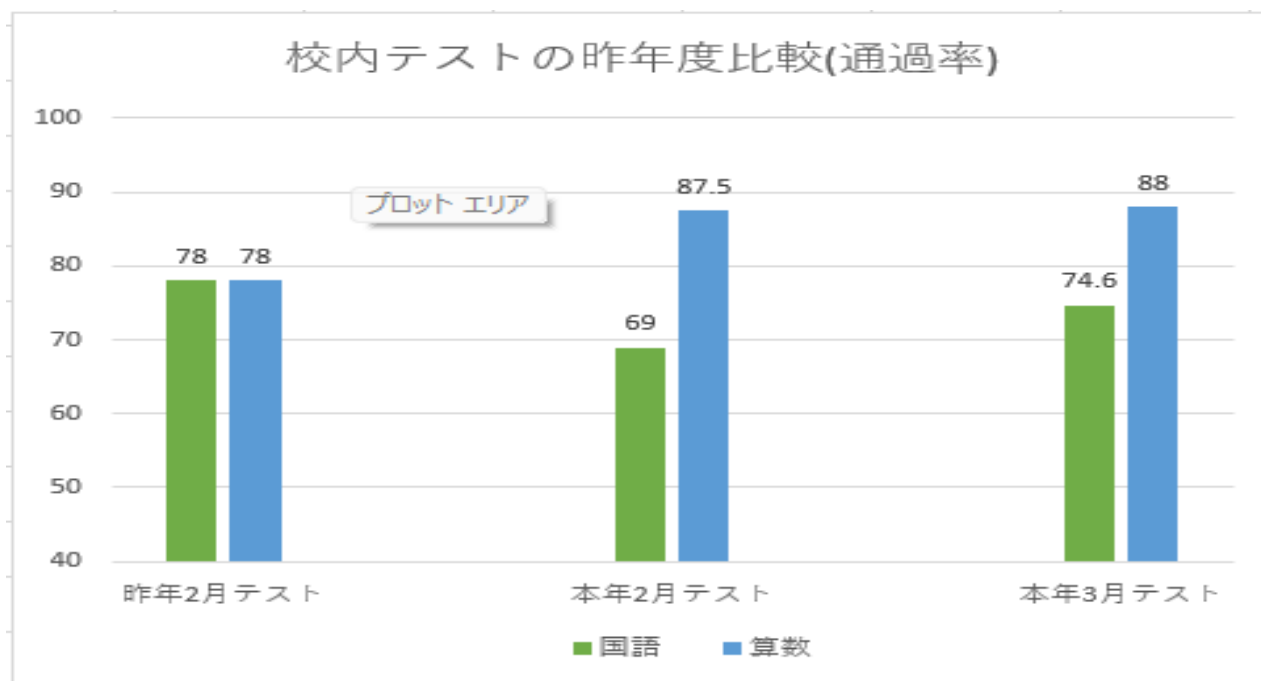
中堅以上の教員が若い教員をよくサポートし協働体制をしっかりと保持しながら十分以上の対応を進めることができている。特に新型コロナ罹患者拡大時期には、リモート授業を工夫展開をする意欲的な教員が多く見られた。全体として授業力・学級経営力に課題がある教員及び精神的に配慮が必要な教員も少なくないが、学校経営方針のもと、皆熱心に職務遂行に取り組む姿勢が認められる。児童は指示待ちの傾向はあるものの明るく素直で大変落ち着いている。健康面・学習面・生活面に配慮を要する児童に対して全職員が共通理解を図り、素早く、組織的に対応することを心掛けている。学校に対する地域・保護者の期待は大きくPTA、地域も大変に協力的である。

4月区学力調査結果は、**通過率全体80.8%、(国語77.3%、算数84.3%)**で、桜花小学校としては初めて**通過率80%以上を達成**した。昨年度と比べ(全体78.1、国語78.38、算数77.6)、特に算数科で6.7%の大幅な向上が見られた。校内研究で算数科の研究を進め、足立スタンダードの徹底を目指してきたほか、S-P表や学力ポートフォリオの作成・分析、3、4年生のそだち指導等も活用し、一人一人の児童の課題や伸びを正確に把握し、日々の授業に加え放課後や長期休業中の補習学習で理解が不十分な個所を重点的に指導し、学校全体として基礎学力の定着を図った。学校評価項目「児童は仲良く楽しく学校生活を送っている」のに対して、92%以上の保護者が「よくできている」「ややできている」と肯定的な回答となり、これについても7%と大幅な向上が見られた。開かれた学校づくり協議会の協力も得ながら年間を通し実施している毎朝のあいさつ運動を推進し、日常的に縦割り活動を進める中で、すべての児童に思いやりの心をもって優しく接するという気持ちが育ってきた。児童の運動能力および筋力、持

久力のさらなる向上を目指し、授業発表会等を通して体育授業や教材、指導内容の工夫に努めた。さらには、持久走週間や縄跳びチャレンジ等、一定期間集中的に運動に取り組む中で、日常的に運動に親しもうとする児童が増えてきている。

そこで、本年度は校内研究教科を算数科として継続し、徹底した足立スタンダードの理解と授業改善に取り組むと共に算数習熟度別少人数指導方法の進め方を大きく変更する。また、放課後学習も全学年週2回設定し、基礎的内容の定着を徹底するまで、できるまで取り組ませてから帰宅できるよう時間を設定し教員全体の共通実践を徹底することとした。特に算数科習熟度別グループについては、原則として教員、児童共に半期固定とし、担当教員の責任意識の下、学力の向上を図る。各学年のグループごとに区学力テスト結果から達成目標を定め、推移を自己申告時に校長と確認した。

2月度区学力調査校内実施の結果は、全体 78.25% (前年比+0.25) : 国語 69(-9.4)、算数 87.5(+9.8)の通過率で、昨年度比で2教科全体としては0.25の微増ではあるものの特に算数科では大きな飛躍が見られた。これは、毎週4回(30分)程度継続実施した放課後の「桜花タイム」で、全員理解するまで徹底した起訴内容定着を図った効果が現れたと実感している。また国語については大幅な減少となったが、本年度3年生以上に週あたり1時間増の特設時間を設け、全学年の算数科単元の終了を早めさせることができたことにより、2月8日後以降の本来算数科授業週あたり5時間を当該学年の国語及び算数科の振り返りと理解定着に充てることができた。また本年度校内2月テストの実施が2月5日であり、その校内学力向上策の成果が発揮できていないことから3月11日に別年度の区学力テストの校内実施を行ったところ下記のように74.6(昨年度-3.4)まで国語も通過率を伸ばすことができている。算数は微増であるものの、年度末に全学年が振り返りにより学力定着を十分に設定した一定の効果を確認することができた。これにより、時期は1か月程度遅れたものの昨年度2月テストと比較すると2教科全体で81.3%通過率となり、本校としては初めて4月テスト前に通過率80%を超える学力定着を確認することができた。





### 次年度に向けた課題及び解決の方向性

週あたり1時間増となる特設時間(1・2学年は月・火曜日、3学年以上は木曜日7校時)の設定により算数の授業を全学年前倒しで進め、2月8日以降、全学年が週あたり6時間(1年生は5時間)の本年度国語科及び算数科の学力定着の期間を年度末にとることができた。これにより、長期間に及んだコロナ禍で心配されていた確かな学力の定着についても確実なものとなり、校内学力テストでもその成果を発揮することができた。これにより令和6年度からは特設時間の設定を終了する形となる。一方で今後の確かな学力定着についても一定程度の時間の確保による学力定着効果が確認できたため、月・火・木・金の週あたり4回、30分の学力定着タイムを授業時間として設定する。本年度の校内学力テスト2月実施分で重点とした算数科の学力伸張は大きな通過率増が認められたものの、国語科においての課題が新たに認められる形となった。その対策として週あたり3回(30分×3回=90分)は算数科の学力定着として進めるが、国語についても週あたり一回(30分)を充て基礎的学習内容の定着を図ることとする。年間を通して算数科では通常よりも90授業時間分、国語科でも30時間分が創出できるため、更なる学力伸張による児童自身が将来社会に大きく貢献するための礎を確実に図っていきたいと考えている。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

長期間のコロナ対応期間をようやく終え、心配されていた子供たちの様子も本来の桜花小学校の姿に戻ってきていることを実感し本当に嬉しく感じております。規制が解除されたとはいえ、コロナのみならずインフルエンザ、胃腸炎等の学校生活でこれまで以上に児童の健康・安全を丁寧に見守る必要性を強く感じる1年となりました。教職一同、保護者・地域の皆様と協働して児童を励ましてまいりたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

本年度は、4月より登校時間を従来より15分早め、学力向上のための特設時間を設定するなど多くのご協力を頂いたことに深く感謝申し上げます。おかげさまをもちまして、児童も自身の課題をしっかりと捉えることができ、その解決や達成に向けて十分に取り組むことができました。校内学力テスト等でも十分にその成果を発揮してくれました。学力定着の十分な効果が確認できたことにより、来年度からは時間割も変更し、登校時間も従来の8:15~8:25の従来形になりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

令和5年度の学校経営にご理解・ご協力をいただき誠にありがとうございました。